



創世会
小沼 秀朗

東京オリンピック・パラリンピック応援策と振興策は

Q 東京2020オリンピック・パラリンピックにおいて輝く

かけがわ応援大使のみなさんのメダル獲得が期待されている。会場への応援方法をいかに考え、スポーツ振興策に繋げようとしているのか伺う。



山本篤選手 2016年リオパラリンピック出場壮行会

より多くの市民がスポーツに接する機会を提供していく

A

出場選手の壮行会やパブリックビューイングを計画しています。この大会を契機に今後は障がいのある方を含め、より多くの市民がスポーツに接する機会を提供し、掛川市のスポーツ振

興に一層取り組んでいきます。

生産年齢人口の転入増加に繋がる企業誘致策を伺う

Q

10年、20年後を見据えた掛川市の人口増加策に繋がる雇用を生み出す企業誘致をいかに考えるのか。また、掛川新エコポリス第3期工業団地については、菊川市と協議会を立ち上げ、広域な計画策定が必要ではないか。

IT化の補助や安心して働ける環境づくりを行う

A

新たな工業団地の造成と共に、生産施設のIT化の補助、女性等の労働参加を支援することで、安心して働ける環境作りを目指しています。これにより、地域で得られる一人当たりの所得が増え、さらに福利厚生が改善され、人を引きつける魅力を持った「選ばれるまち」となることを期待します。協議会については、菊川市長へ働きかけていきます。

【その他の質問事項】

・掛川市が誇る伝統工芸品「葛布」について

年間テーマを定め活発な議論

常任委員会ごとに1年間の研究テーマを定め、これまで調査研究を重ねてきました。また、議会報告会では調査内容を市民の皆さんにお示しし、意見交換を行いました。今回その内容に基づき、市当局と議論する場として、委員会協議会を開催いたしました。ここでは、議論された内容の要旨を掲載します。

本年度の共通テーマ

公共施設の在り方

掛川市が保有する公共施設等をすべて維持していくためには今後、毎年30億円予算が不足すると試算されており、今後の統合・再配置などにより不足額の解消が必要です。議会としても、公共施設のあり方については、避けて通れない市政の重要課題だと考えており、市当局からの提案に対して適正な判断ができるように、本年度のテーマとして決めました。